

## 平成23年9月沿岸定線観測の結果

平成23年9月8日～9日に、調査船「拓水」で鵜ノ尾埼及び富岡の沿岸定線観測を実施しましたので、その結果についてお知らせします。

### 1 水温の前年差及び平年差

#### (1) 前年差

表面では鵜ノ尾埼定線で前年よりやや低めで(-1.87)、富岡定線では前年並みでした(-0.48)。100m深では鵜ノ尾埼定線、富岡定線とも前年並みでした(鵜ノ尾埼定線-0.84、富岡定線+0.89)。

#### (2) 平年差

表面では鵜ノ尾埼定線、富岡定線とも平年並みでした(鵜ノ尾埼定線+0.72、富岡定線+0.21)。100m深では鵜ノ尾埼定線、富岡定線とも平年よりやや低めでした(鵜ノ尾埼定線-1.88、富岡定線-2.30)。

表1 定線別の水温観測値と前年差及び平年差

(単位:℃)					
観測水深	定線	観測値	前年差	平年差	備考(平年差)
表面	鵜ノ尾埼	23.33	-1.87	+0.72	30海里、40海里で平年よりやや高め。
	富岡	23.08	-0.48	+0.21	50海里で平年よりやや高め。
	塩屋埼	—	—	—	
	定線全体	23.24	-1.36	+0.54	2定線の前年値、平年値との比較
100m深	鵜ノ尾埼	9.85	-0.84	-1.88	30海里から50海里にかけて平年よりやや低め。
	富岡	9.11	+0.89	-2.30	50海里で平年より極めて低め。
	塩屋埼	—	—	—	
	定線全体	9.43	+0.15	-2.12	2定線の前年値、平年値との比較

※観測値は50海里内の平均値、平年値は過去30年の平均値。塩屋埼定線は欠測。

#### 〔平年差の表現基準〕

平年並み	0～±0.9℃
やや高め(低め)	±1.0～2.4℃
高め(低め)	±2.5～3.9℃
極めて高め(低め)	±4.0℃～

### 2 水温の鉛直分布

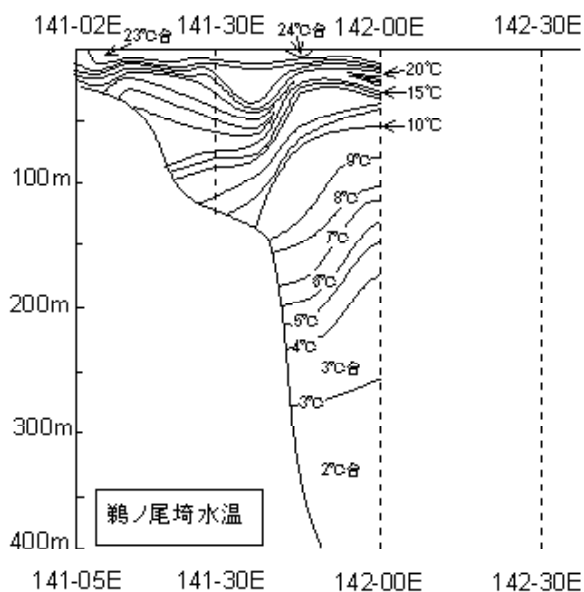
鵜ノ尾埼、富岡とも表面から50mまでの層に水温躍層※が顕著に形成され、100m層では鵜ノ尾埼で8～12℃台、富岡で6～11℃台が分布していました。

300m層以深では鵜ノ尾埼で2℃台、富岡では2～3℃台が分布していました。

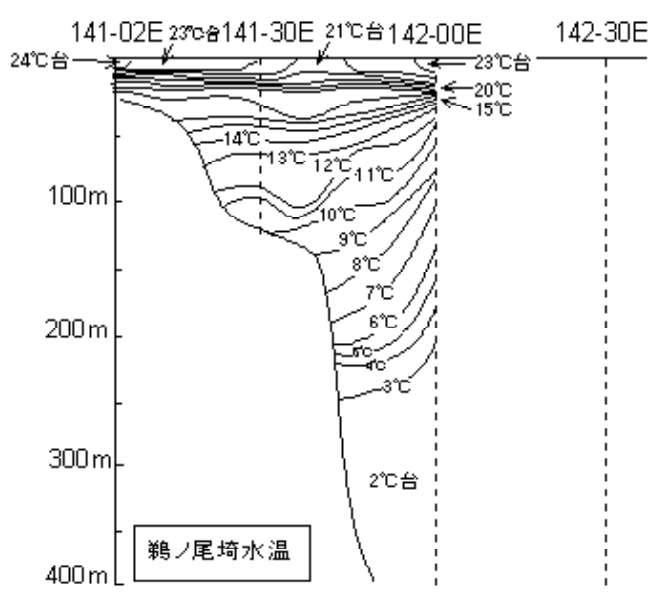
50m層以浅では鵜ノ尾埼定線、富岡定線ともほぼ前月と同じ水温分布ですが、100m層以深では、富岡定線で前月よりやや低い水温が分布していました。

※ 水温躍層：海面付近が日射によって暖められ、下層との水温差が大きくなる水温層のこと

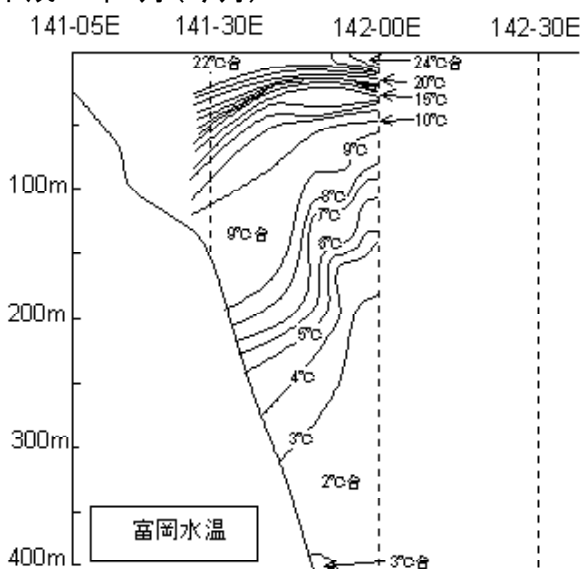
平成23年9月(今月)



平成23年8月(前月)



平成23年9月(今月)



平成23年8月(前月)

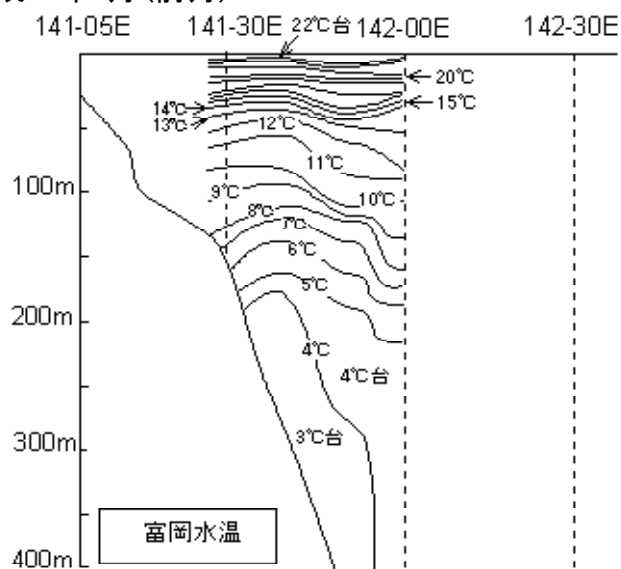


図1 水温の鉛直分布(鵜ノ尾埼定線、富岡定線)

#### 4 今後の見通し(1か月予測)

前月に引き続き、この季節の特徴である水温躍層が形成されています。また、親潮系冷水、黒潮系暖水とも本県沿岸への強い波及はみられません。

気象庁の1か月予測では、沿岸水温は「平年並み」と予測されています。

(海洋漁業部)

県版資源評価票と主要魚種の資源状況について

福島県では、資源管理の対象となっている魚種、重要な漁獲対象となっている魚種について、生態、漁獲の動向、資源管理への取り組みを魚種別にまとめた“県版資源評価票”および現在の資源の状況、加入状況をまとめた“主要魚種の資源状況”を作成しています。今回、平成22年の調査の結果を受け、内容を更新しました。今回は“主要魚種の資源状況”と“マアナゴの資源評価票”です。今後、各魚種について順次掲載いたします。

※県版資源評価票は水産試験場のホームページでも公開されていますので、こちらをご覧ください。  
アドレス [http://www.pref.fukushima.jp/suisan-shiken/shigen\\_hyoukahyou.html](http://www.pref.fukushima.jp/suisan-shiken/shigen_hyoukahyou.html)

主要魚種の資源状況(H23年版)

NO.	魚種名	資源状況		平均漁獲金額 (億円)	加 入 状 況					資源タイプ
		水準	傾向		H22生まれ	H21生まれ	H20生まれ	H19生まれ	H18生まれ	
1	マアナゴ	中位	横ばい	3.2	—	—	△	○	△	来遊
2	シラス	—	—	7.9	親のカタクチイワシ太平洋系群の資源量は中位、減少傾向(H22年国の資源評価)					来遊
3	シラウオ類	中位	減少	0.8	—	—	—	—	—	地先
4	サケ	—	—	1.3	—	—	—	—	—	地先
5	メヒカリ	—	—	1.5	×	△	×	○	△	来遊
6	マダラ	中位	横ばい	3.1	○	—	○	×	○	来遊
7	キアンコウ	中位	減少	1.7	×	—	○	×	×	地先＋来遊？
8	メバル	中位	増加	1.6	×	×	×	×	×	地先
9	アイナメ	低位	横ばい	1.7	×	×	×	×	×	地先
10	イカナゴ	中位	横ばい	11.1	2歳魚以上の資源水準はH6～10年で比較的高かったが、H11～18年は中～低位で変動					地先
11	ヒラメ	高位	横ばい	7.3	◎	△	○	○	△	地先
12	ババガレイ	中位	減少	2.2	—	—	×	×	△	地先＋来遊
13	ホシガレイ	—	—	0.1	—	—	—	—	—	地先
14	アカガレイ	高位	横ばい	1.2	—	—	—	—	—	地先
15	ヤナギムシガレイ	中位	横ばい	1.4	—	×	△	△	△	地先
16	イシガレイ	中位	減少	3.0	△	×	△	×	×	地先
17	ミギガレイ	中位	増加	0.5	—	△	△	△	○	地先
18	マガレイ	高位	横ばい	4.8	○	△	△	×	△	地先
19	マコガレイ	中位	減少	3.0	△	×	△	×	×	地先
20	アワビ	—	—	2.0	—	—	—	—	—	地先
21	シライトマキバイ	—	—	1.1	—	—	—	—	—	地先
22	ホッキガイ	中位	減少	2.1	×	×	×	×	×	地先
23	マダコ	—	—	1.1	△	△	×	○	×	来遊
24	ヤナギダコ	高位	減少	4.9	×	△	×	×	×	地先
25	ミズダコ	中位	減少	3.1	—	—	—	—	—	地先＋来遊
26	ツノナシオキアミ	—	—	—	—	—	—	—	—	地先
27	ズワイガニ	中位	横ばい	1.2	—	○	△	△	△	地先
28	ケガニ	低位	横ばい	0.7	×	×	△	×	△	地先
29	キタムラサキウニ	—	—	1.0	—	—	—	—	—	地先
30	ナマコ類	—	—	—	—	—	—	—	—	地先

注1) 平均漁獲金額は直近5年の平均値(H18～22年)。

注2) 加入状況の○：高位、△：中位、×：低位、—：不明を示す。各年級間の相対比較である。なお、卓越年級群については、高位であるが◎で表示した。

注3) ヤナギダコ、キアンコウ、メヒカリ、ズワイガニ、ケガニ、マダコは生まれ年でなく、調査年で示した。

注4) イカナゴの漁獲金額はコウナゴ＋メロウド。

マアナゴ（地方名：𩺰𩺰(着底後)、𩺰𩺰𩺰𩺰(浮遊期)）

生態

- 分布・移動：北海道以南の日本各地の沿岸、朝鮮半島、南西諸島に分布します。本県では、水深100m付近が主分布域ですが、水深100m域の水温が10℃を下回る2～5月には、県南部に偏る傾向がみられます。本県で漁獲されるマアナゴはほとんどがメスですが、松川浦ではオス・メスが半々位の割合で採集されます。
- 成熟・産卵：本県で漁獲されるものに成熟個体は見つかっていません。産卵場も特定されていませんが、日本の南方海域という説が有力です。産卵は12月頃行われ、ノレソレは黒潮によって運ばれて本県海域に来遊します。浮遊期は100日以上に及びます。
- 食性：稚魚はヨコエビ類を、成長後はカタクチイワシ等の魚類を主に食べます。

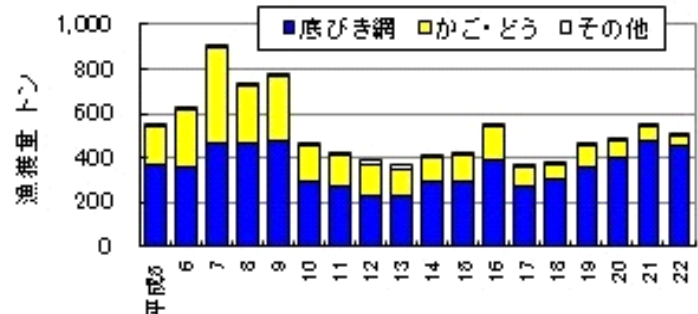
マアナゴの成長  
(12月1日起算)

年齢	全長 (cm)
1	25～60
2	35～80
3	35～105
4	50～105
5	55～110以上
6	60～110以上
7	80～110以上

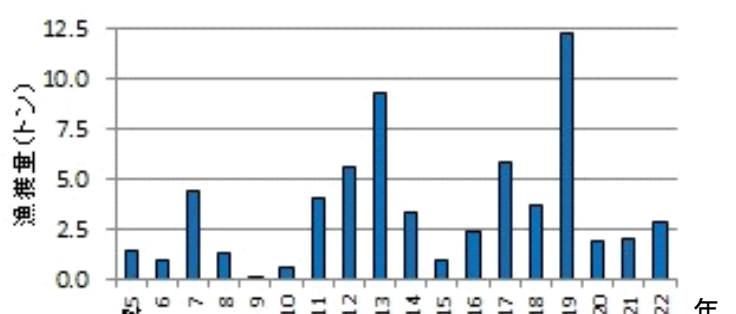
漁獲の動向

【マアナゴ】平成22年の漁獲量は503トン、漁獲金額は296百万円でした。漁獲量は、平成10～18年は400トン前後と低迷しました（平成16年（545トン）を除く）が、平成19年以降増加しています。しかし、漁獲金額は漁獲量ほどには増加していません。漁獲量は底びき網で増加し、かご・どうで減少しています。2～3歳魚が漁獲の主体になっています。

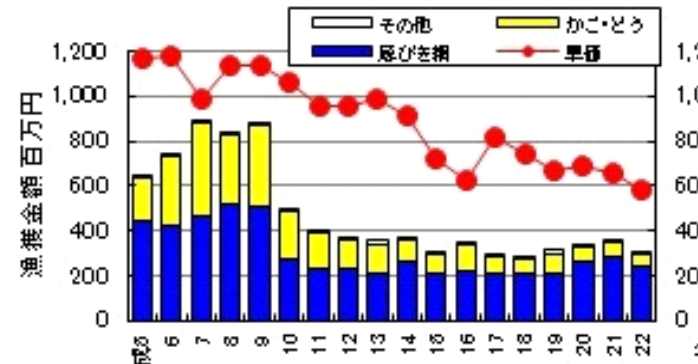
【ノレソレ】平成22年の漁獲量は2.9トン、漁獲金額は3.5百万円でした。船びき網によるノレソレを狙った操業は平成2年頃から始まりました。ノレソレの来遊量の変動や、コウナゴ等の漁模様による着業隻数の変動のため、漁獲量、金額の変動は大きいですが、平成19年に過去最高の漁獲（12トン）がありまし



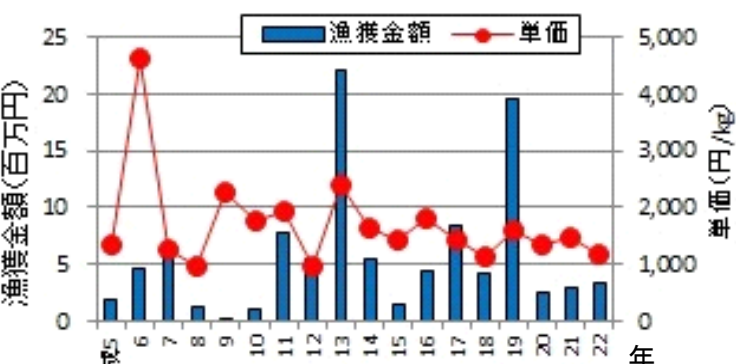
漁獲量の推移(マアナゴ)



漁獲量の推移(ノレソレ)



漁獲金額と単価の推移(マアナゴ)



漁獲金額と単価の推移(ノレソレ)

資源の状態：

- 過去の漁獲量からみると、近年の漁獲量（500トン前後）は中位と考えられます。
- 漁獲量や幼稚魚調査の結果から、平成19年にノレソレの来遊量が多かったと考えられます。平成23年にはこの群がさらに成長するので、資源量は増加するものと考えられます。

資源の水準：中位  
資源の動向：増加

現在実施されている管理策

平成19年2月に策定された「福島県マアナゴ資源回復計画」に基づいて、マアナゴの全長規制（30cm）とノレソレの漁獲規制（相双：禁漁、いわき：2～5月、20kg/隻・日、定休日設定）が実施されています。

今後考えられる管理策

いわき地区でのノレソレの漁獲規制の強化や、自主規制の他県への拡大が考えられます。



## 調査船「こたか丸」のご紹介

福島県は、3隻の漁業調査指導船(いわき丸(159トン)、拓水(30トン)、あづま(50トン))により、漁業調査や指導業務を実施してまいりました。

しかしながら、漁業調査船「いわき丸」(159トン)は、平成23年3月11日の大津波で小名浜港停泊中に沈没してしまったため、いわき丸が担ってきた海洋観測や水産資源調査等、資源管理型漁業の推進に必要な調査に支障を来してきました。

このため、福島県は、水産庁を通じて独立行政法人水産総合研究センターの調査船の派遣・協力について要望したところ、調査船「こたか丸」(59トン)を派遣していただくことになりました。

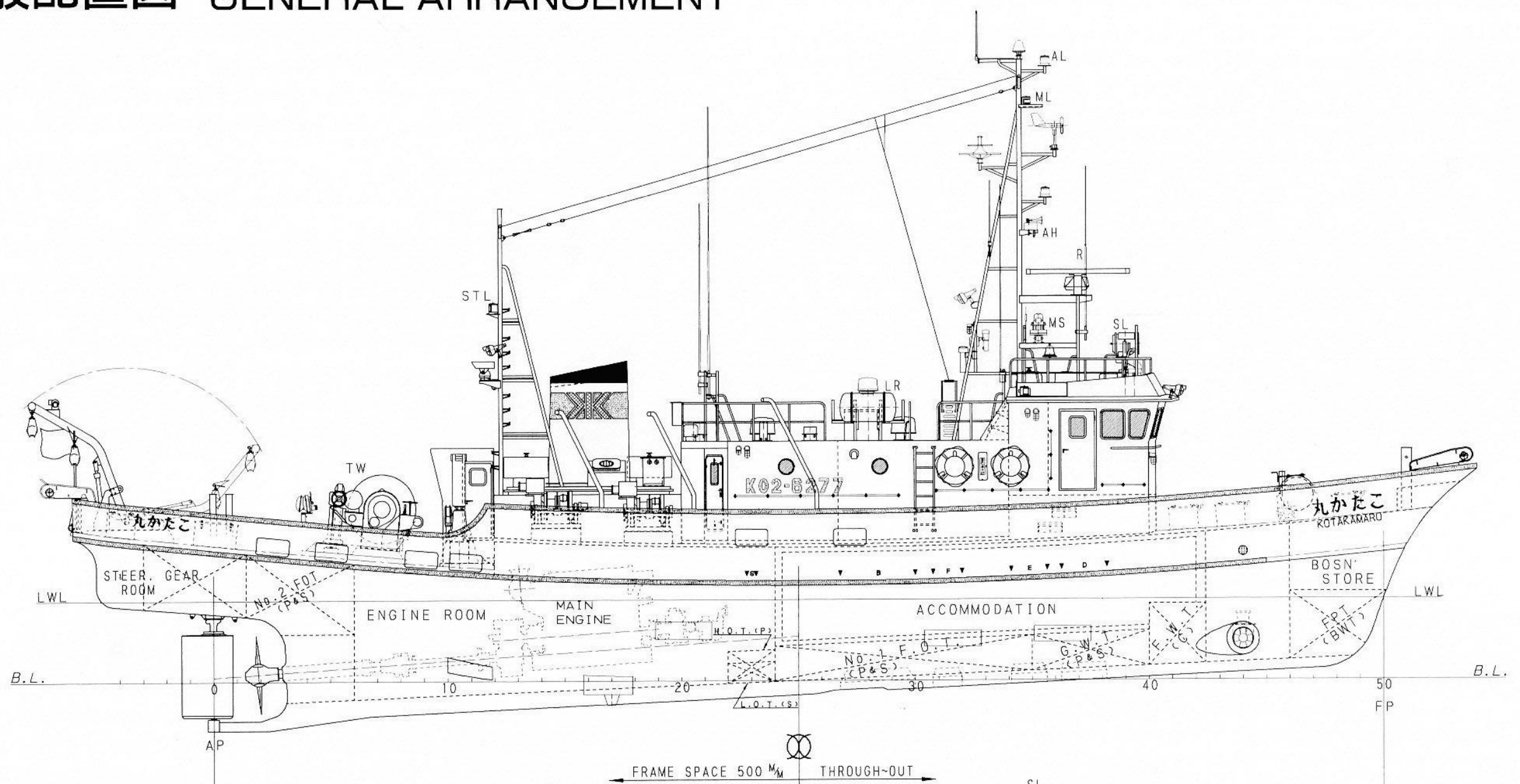
10月10日(月)に、小名浜港へ入港予定です。

今後は、水産総合研究センターと連携しながら、海洋観測や底びき網調査など、各種調査を再開する予定です。

こたか丸の派遣並びに、いわき丸に代わる調査の実施について御協力を賜りました、水産庁、独立行政法人水産総合研究センター、東京海洋大学、その他関係各位に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

### 「こたか丸」の概要

### 一般配置図 GENERAL ARRANGEMENT



#### 主要目等

長さ(全長) 30.02m

長さ(垂線間) 25.00m

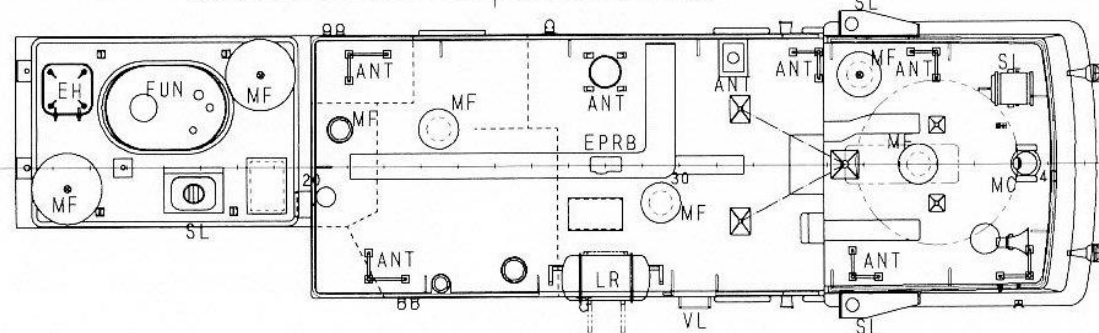
幅(型) 5.37m

総トン数 59トン

主機関 新潟鉄工所 6MG19HX 1,000ps×1,000rpm×1機

満載航海速力 12.0ノット

竣工 平成7年3月16日



平成23年度第3回北西太平洋サンマ中短期漁況予報

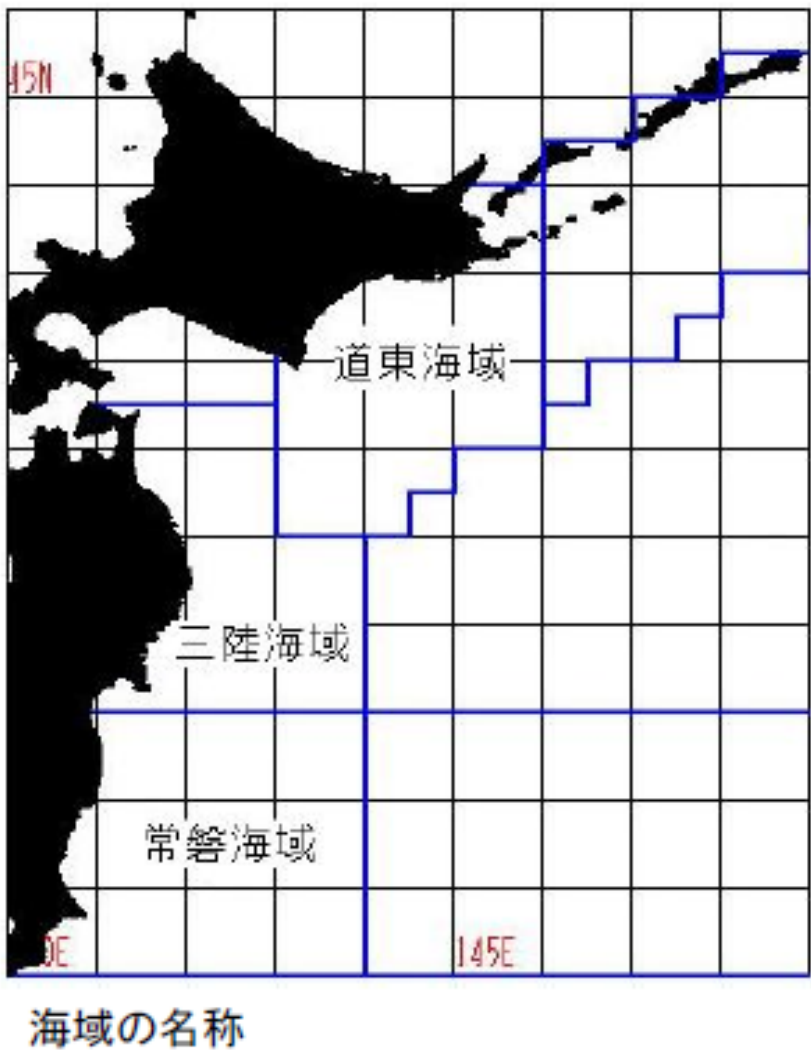
9月29日に、社団法人漁業情報サービスセンターが取りまとめ公表した標記予報の概要をお知らせします。

1. 今後の見通し  
予測期間: 2011年10月上旬から11月中旬までの旬別  
対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域  
対象漁業: さんま棒受網漁業  
対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量  
10月上旬～中旬は中位水準で推移する。10月中旬から徐々に減少を始め、10月下旬は低位水準となる。11月中旬には断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場  
10月上旬の主漁場は、落石～厚岸沖であるが、襟裳岬沖の沖合を南下する親潮沿いにも断続的に漁場ができる可能性がある。落石～厚岸沖の漁場は10月下旬まで持続する。11月上旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となり、11月中旬は襟裳岬沖に断続的に漁場が残る。



2) 三陸海域

(1) 来遊量  
10月上旬は低位水準であるが来遊がある。10月中旬も低位水準であるが、来遊量はゆるやかに増加する。10月下旬～11月中旬は中位水準となる。

(2) 漁場  
10月上旬は、三陸北部に漁場が形成される可能性がある。10月中旬は三陸北部に漁場が形成され、10月下旬～11月中旬は北部～南部にかけて漁場が形成される。

3) 常磐海域

(1) 来遊量  
11月上旬は断続的ではあるが来遊があり、来遊量はゆるやかに増加する。11月中旬まで低位水準で推移する。

(2) 漁場  
現在、福島第一原子力発電所より半径100km圏内では、操業の自主規制が行われている。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量	→	→	→	→	→
	動向	中位水準	中位減少	低位減少	低位減少	断続的
	漁 場	落石～厚岸沖 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	釧路～ 襟裳岬沖	襟裳岬沖
三陸海域	来遊量			→	→	→
	動向	低位水準	低位増加	中位増加	中位水準	中位減少
	漁 場	北部	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向				断続的	低位増加

※落石…北海道根室市、根室半島の付け根

## シラス（カタクチイワシの仔魚）

福島県で漁獲される「シラス」は、大部分がカタクチイワシの仔魚です。

### 生態

○年齢・成長：生後50日で約30mmに成長します。

○成熟・産卵：成熟開始年齢は1歳です（100%）。

産卵期は冬季を除くほぼ周年で早春～夏季が盛期、産卵場は沿岸～沖合の広い海域です。

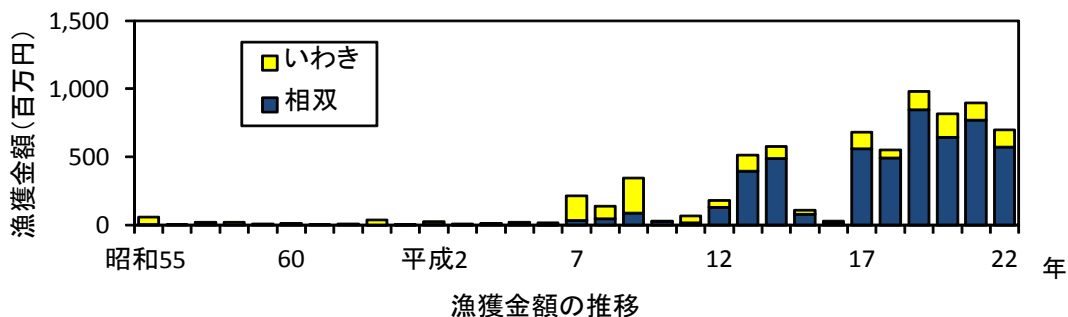
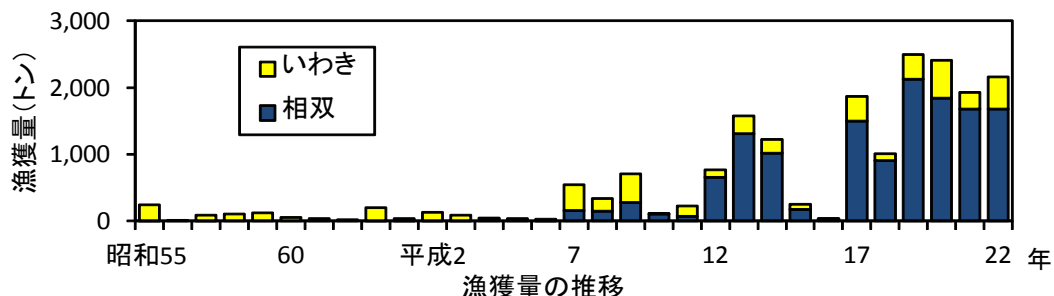
○分布・移動：周年、九州～北海道の太平洋沿岸、黒潮域、黒潮続流域、黒潮親潮移行域、親潮域、沖合では東経170度付近の海域まで分布します。

○食性：動物プランクトン等を食べます。

### 漁獲の動向（※カタクチイワシシラス、マイワシシラスの合計）

漁獲はすべて機船船びき網によるものです。平成22年の漁獲量は2,164トン、金額は699百万円でした。平成7年頃まではいわき地区の漁獲が中心で100～300トン前後で推移しましたが、それ以降は相双地区の漁獲が増加し、500～2,000トン前後で推移しており、年変動が大きくなっています。漁獲金額は平成7年に200百万円を超え、平成12年以降は200～1,000百万円前後で推移しています。

漁期は「春シラス漁（5～7月）」と「秋シラス漁（8月～）」に分かれますが、主漁期は8月以降です。



### 資源の状態

○カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は中位で減少傾向にあります。

○シラスの漁場形成は海況に左右されるところが大きく、海況次第で漁獲量は大きく変動します。

○他魚種の餌料生物資源としての観点では情報がなく不明です。

### 現在実施されている管理策

ありません。

なお、国がカタクチイワシ太平洋系群について資源評価を行っており、その中ではシラスの漁獲が資源に与える影響は少ないとされています。

# イシカワシラウオ（地方名：シラウオ）

## 生態

分布・移動：青森県から和歌山県までの太平洋、瀬戸内海に分布します。  
水深20m以浅の砂場に生息します。

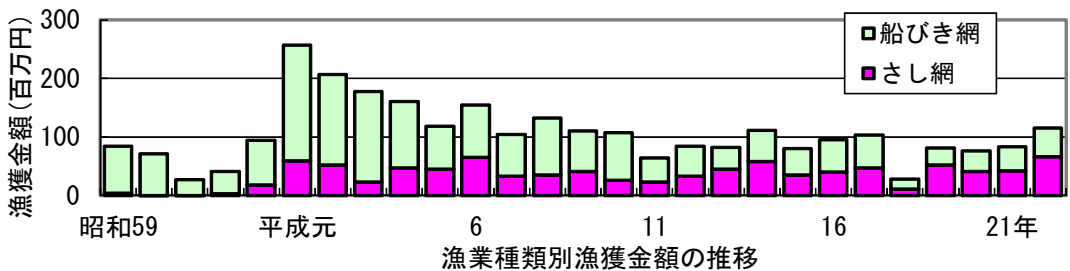
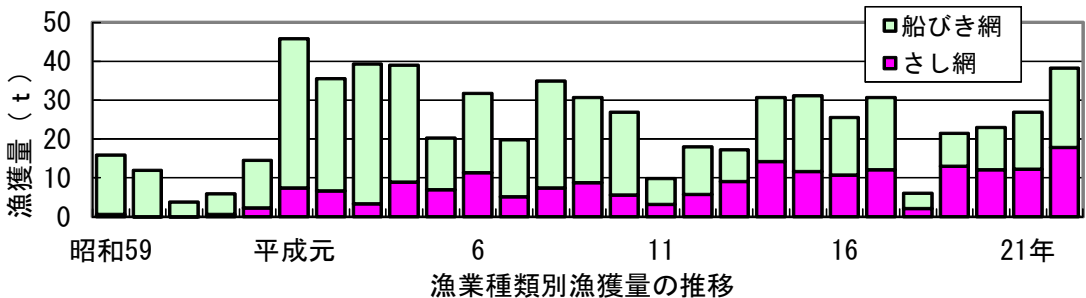
成熟・産卵：オス、メスとも1年で全長7cmほどに成長し、成熟、産卵後に死亡します。  
産卵期は2～6月で、5～6月がピークです。水深5m前後の粗砂底に産卵します。

食性：小型動物プランクトン（コペポダ、アミ類）が主体です。

## 漁獲の動向

冬から春に漁獲されるため、12月～4月を漁期年として統計値を整理しています。

船びき網のピークは2月上旬、さし網のピークは4月中旬です（平成12～20年平均）。平成12年から21年までの平均値は23.0トン、8,246万円です。長期変動をみると昭和61、62、平成5、11、18年に水揚げが減少しており、増減の周期は6～7年であると考えられます。平成12年以前は船びき網による漁獲割合が高かったですが、近年はさし網による割合が高い傾向がみられます。



## 資源の状態

○漁獲量からみた近年の資源状態は中位と考えられます。イシカワシラウオは年魚であるため、資源状態は前年における親魚の産卵数に大きく左右されます。

資源の水準：中位

資源の動向：横ばい

## 現在実施されている管理策

漁業者の取り決めで船びき網は12月～3月、さし網は2月～4月を操業期間とし、水揚げを制限しています。

## 考えられる管理策

漁期の短縮により、成熟に至る尾数を増加させて、産卵数を増加させることが考えられます。

産卵数確保のため、産卵場と考えられる海域に禁漁区を設定することが考えられます。



## サンマの初水揚げ

10月15日(土)に、県内では今年初となるサンマの水揚げが小名浜港でありました。概要は次のとおりでした。

初水揚げ以降も18日(火)、21日(金)と水揚げがあり、今後も継続することが期待されます。

### 1 初水揚げの概要

漁場: 北海道襟裳岬沖(図1)

水揚げ隻数: 1隻

水揚げ量: 77トン

魚体: 中型主体(図2)

単価: 116円/kg～90円/kg(平均94円/kg)

※同日水揚げの本州他産地における平均単価

…129円/kg～62円/kg

(漁業情報サービスセンター速報より抜粋)

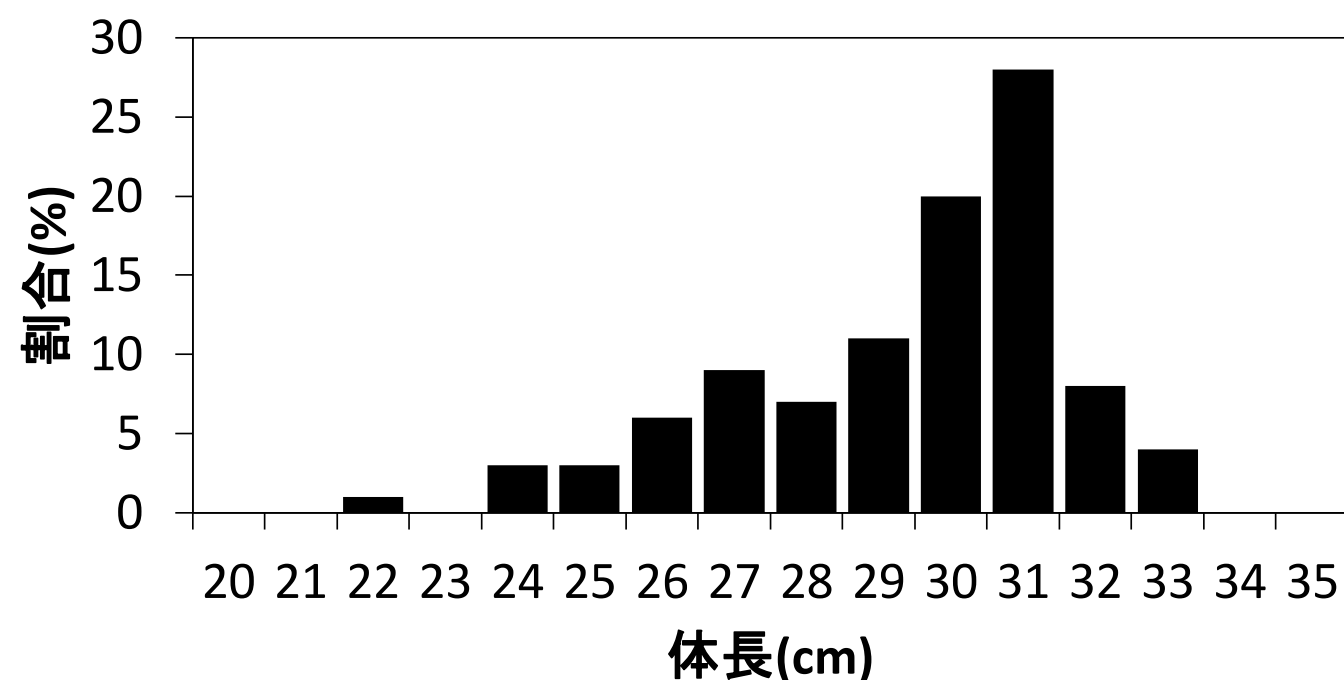


図2 魚体組成

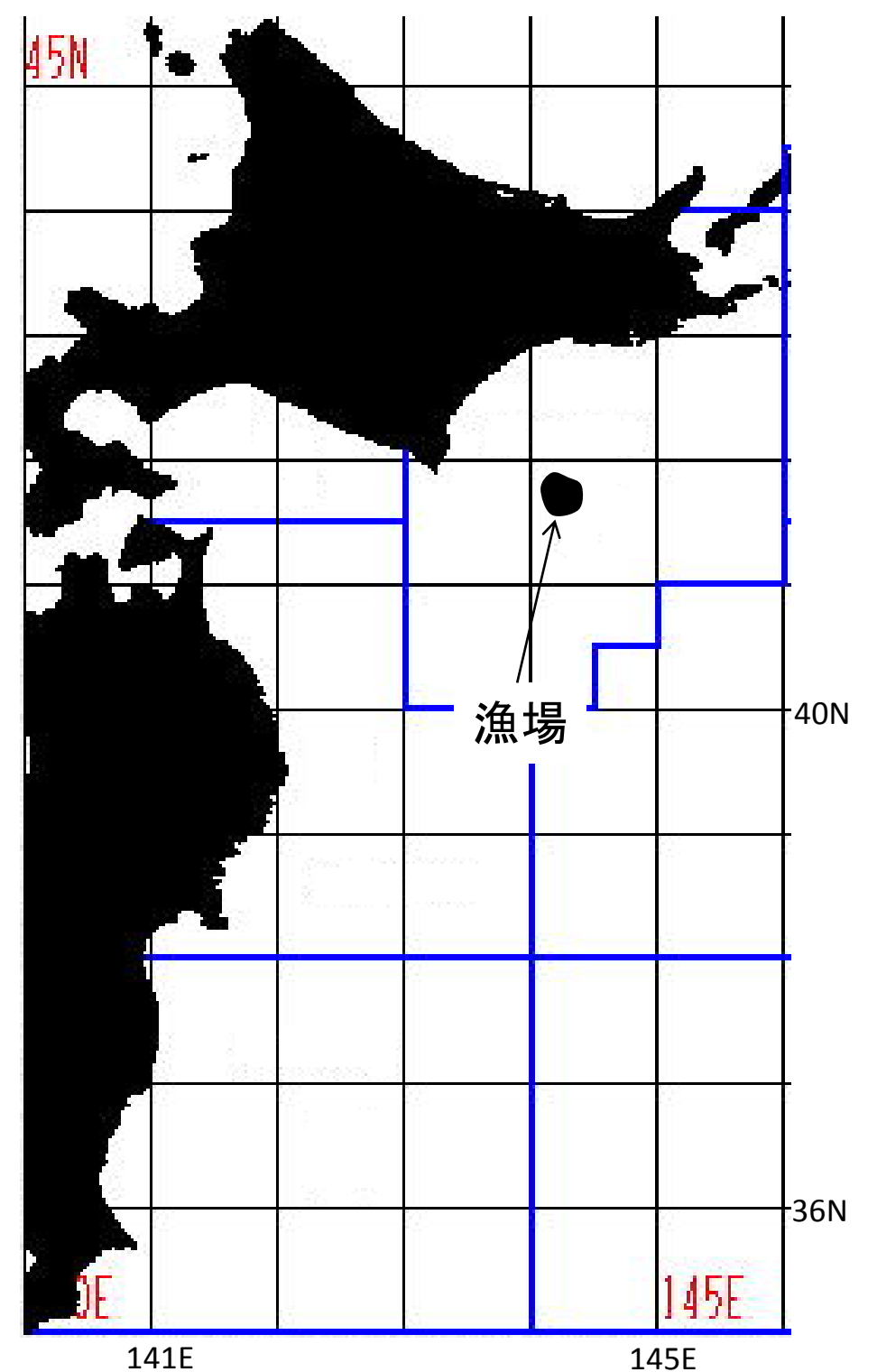


図1 初水揚げの漁場位置

【サンマ等の広く回遊する魚の放射性物質に係る安全確保】(水産庁ホームページより転載)

広く回遊するカツオ、サバ、サンマ等についても、週1回程度主要水揚げ港においてサンプリング調査を実施し、速やかに分析結果をお知らせします。

特に福島県の沖合海域にこれらの魚が回遊することが予測される場合には、事前に試験的な漁獲を行って放射性物質の調査を実施し、その結果が暫定規制値を超えていないことを確認した後に漁業を開始することとしており、その後も主要水揚げ港で週1回程度の定期的な調査を行います。

水産物についてのご質問と回答(放射性物質調査)

[http://www.jfa.maff.go.jp/j/kakou/Q\\_A/index.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/kakou/Q_A/index.html)

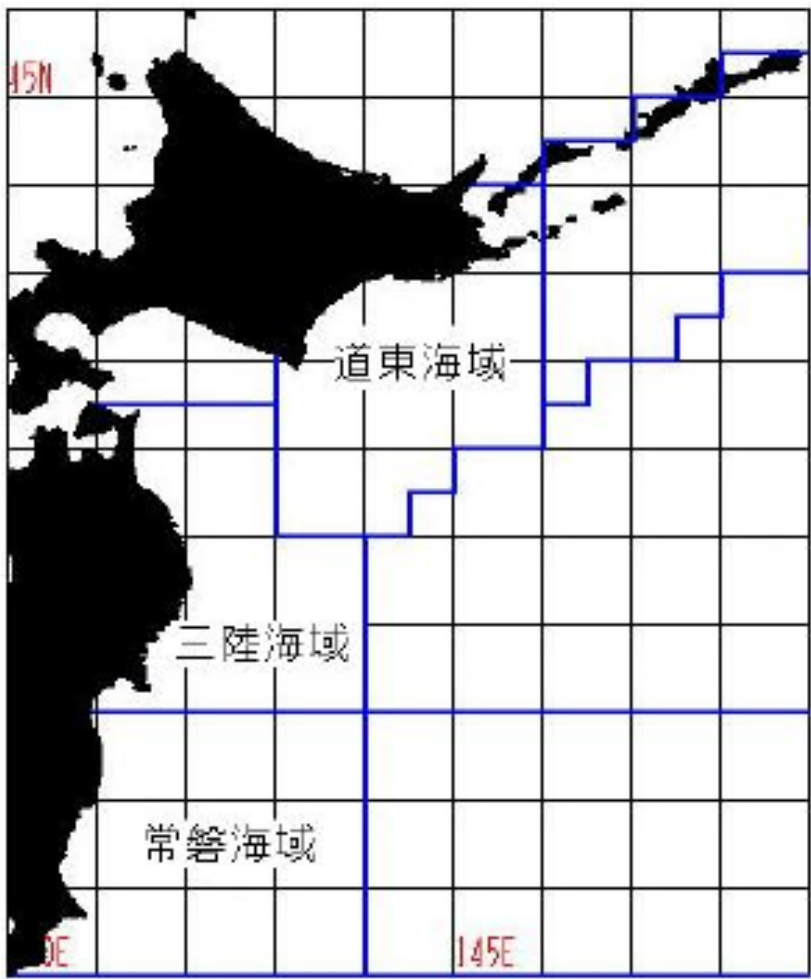


平成23年度第5回北西太平洋サンマ中短期漁況予報

10月19日に、社団法人漁業情報サービスセンターが取りまとめ公表した標記予報の概要をお知らせします。

1. 今後の見通し  
予測期間: 2011年10月下旬から12月上旬までの旬別  
対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域  
対象漁業: さんま棒受網漁業  
対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域  
(1) 来遊量  
来遊量は徐々に減少し、10月下旬は低位水準となる。11月中旬には断続的となり、終漁となる。  
(2) 漁場  
10月下旬～11月上旬の主漁場は、厚岸～襟裳岬沖である。11月中旬は、襟裳岬沖に断続的ながらも漁場が残る。



海域の名称

2) 三陸海域  
(1) 来遊量  
来遊量はゆるやかに増加し、10月下旬～11月中旬は中位水準となる。11月中旬から減少し、11月下旬～12月上旬は低位水準となる。  
(2) 漁場  
10月下旬～11月中旬は北部～南部にかけて漁場が形成される。11月下旬～12月上旬は、三陸北部の漁場が消滅し、南部に漁場が残る。

3) 常磐海域  
(1) 来遊量  
来遊量はゆるやかに増加し、10月下旬は断続的ではあるが来遊がある。11月中旬まで低位水準で推移するが、11月下旬～12月上旬は中位水準となる。  
(2) 漁場  
現在、福島第一原子力発電所より半径100km圏内では、操業禁止となっている。

2. 予測の概要

海 域		10月下旬	11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位減少	低位減少	断続的		
	漁 場	厚岸～襟裳岬沖	厚岸～襟裳岬沖	襟裳岬沖		
三陸海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位水準	中位減少	低位減少	低位減少
	漁 場	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部	南部
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位増加	低位増加	中位増加	中位水準

## 平成23年度ヒラメ天然稚魚発生状況について

福島県水産試験場では、毎年8月～10月にかけて調査船「拓水」によりヒラメ天然稚魚の採捕調査を行い、稚魚の発生状況を調査しています。

調査はソリネットという漁具を用い、船速2ノットで10分間曳網する方法で実施しています。1日あたりの曳網回数は2～4回です。

本年度は8月3日、9月7日、9月29日、10月18日に相馬海域で、8月17日、9月5日、10月27日にいわき海域で調査を実施しました。



ソリネット(水工研Ⅱ型)

延べ7日間の調査で、合計5尾のヒラメ稚魚が採捕されました。その結果、平成23年級ヒラメ稚魚の生息密度は1,000m<sup>3</sup>あたり0.2尾となり、過去10年間の中で最も少ない数となりました。

採捕されたヒラメの全長は、8月に採捕した稚魚が47mm、9月に採捕した稚魚が23mm、29mm、39mm、10月に採捕した稚魚が81mmであり、小型のものが目立ちました。

ヒラメは年によって発生状況が大きく異なります。昨年度はヒラメ稚魚の生息密度が1,000m<sup>3</sup>あたり9.2尾であり、大量発生であったと考えられています。

例年であれば5～8月に生まれたヒラメは、翌年の秋に全長30cmまで成長し、その後1～2年間漁獲され続けます。

福島県海域における平成23年級のヒラメは少ないと考えられますが、平成22年級のヒラメは非常に多いので、ヒラメ資源が急激に落ち込むことはないと考えられます。

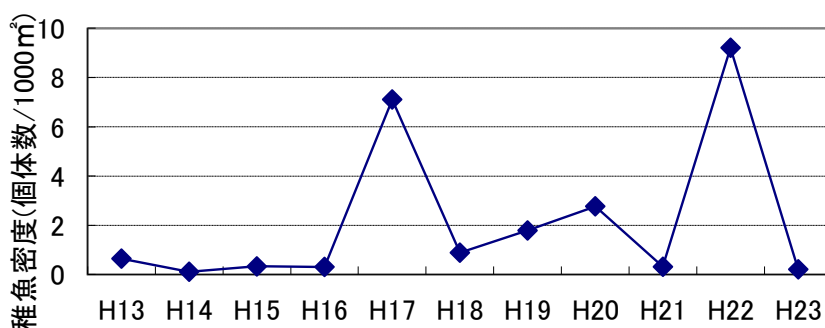


図1 8～10月の平均天然稚魚密度

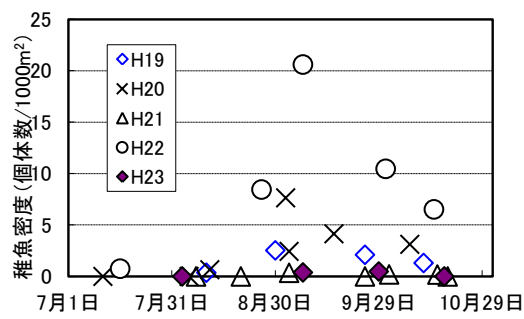


図2 相馬海域稚魚密度

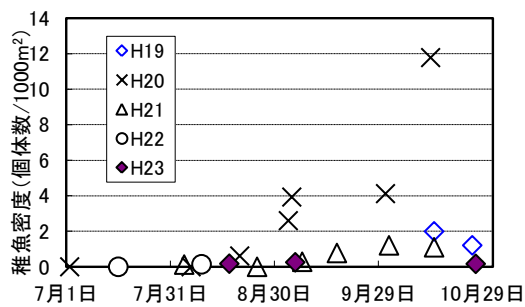


図3 いわき海域稚魚密度

(栽培漁業部)

震災以降の漁況概況のお知らせ

3月12日～10月26日の県内における漁況概況は次の通りです。

漁況概況(福島県水産試験場)

単位：kg  
数量・単価標記…「－」→不明 「＝」→一本値

地区	漁業種類	水揚げ日	延隻・統	魚種	水揚げ量	高値単価	平均単価	備考
小名浜 底曳	はえなわ	7/6	1	キハダ	487	777	721	いわき海 星高校練 習船「福 島丸」
				メバチ	4,710	1,040	926	
				クロカジキ	1,952	315	295	
				マカジキ	279	420	170	
				メカジキ	448	662	644	
	まき網	8/29	1	カツオ	18,541	368	154	
				キハダ	208	473	243	
	棒受網	10/15, 18, 21, 26	4	サンマ	366,777	138	115	

お知らせ

次週の漁海況速報は休刊します。  
次号(No.37)は、11月11日(金)に発行いたします。

平成23年度 水産試験場参観デーのお知らせです！！

# 平成23年度 参観デー

Fight!  
Fukushima! がんばろう  
ふくしま!

11月19日(土)10時より

福島県水産試験場・水産種苗研究所



小名浜港側が通行止めの場合は、  
マリンタワー側からお越しください。

放流サイズひらめの展示

ミニ水族館、磯生物のタッチプール

さんま鍋の試食あります(1:30～)

藻場、干潟の生物観察

研究成果のパネル展示

講演「魚介類と放射性物質(仮題)」

東京海洋大学石丸教授(13:30～14:30)

放射性物質モニタリング調査結果のパネル展示



いつものように **無 料** です

福島県水産試験場・水産種苗研究所

いわき市小名浜下神白字松下13-2 電話 0246-54-3151

E-mail: suisansik@pref.fukushima.jp



うつくしま、ふくしま。

福島県



## 平成23年度 第7回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

平成23年11月9日に社団法人漁業情報サービスセンターが公表した予報をお知らせします。

### 1. 今後の見通し

予測期間:2011年11月中旬から12月下旬までの旬別

対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業:さんま棒受網漁業

対象魚群:南下回遊群

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

来遊量は減少し、11月中旬には低位水準となる。11月下旬には断続的となり、終漁となる。

##### (2) 漁場

11月中旬には、沿岸寄りの漁場は消滅するが、落石岬～厚岸沖合と襟裳岬沖合に漁場が形成され、11月下旬には、襟裳岬沖に漁場が残る。

#### 2) 三陸海域

##### (1) 来遊量

来遊量は増加し、11月中旬には中位水準となる。その後減少し、12月上旬には低位水準となり、終となる。

##### (2) 漁場

11月中旬には、北部～南部にかけて漁場が形成される。11月下旬～12月上旬には、三陸北部の漁場は消滅し、南部に漁場が残る。

#### 3) 常磐海域

##### (1) 来遊量

来遊量はゆるやかに増加し、11月中旬は低位水準で推移するが、11月下旬～12月上旬には中位水準となる。12月中旬から減少し、低位水準となる。

##### (2) 漁場

現在、業界の自主規制により、東京電力福島第一原子力発電所から半径100km圏内を操業禁止と

## 漁況概況のお知らせ

10月27日～11月7日の県内における漁況概況は次の通りです。

漁況概況(福島県水産試験場)

単位: k g

数量・単価標記…「-」→不明 「=」→一本値

地区	漁業種類	水揚げ日	延獲・統	魚種	水揚げ量	高値単価	平均単価	備考
小名浜 底曳	はえなわ	11/7	1	(データ集計中)				いわき海星 高校練習船 「福島丸」
	棒受網	10/29, 31, 11/1, 4, 5	5	サンマ	482, 613	150	93	

緊急時モニタリング検査結果（総括表）

※詳細は水産課HPに掲載しています。

<http://www.pref.fukushima.jp/suisan/sinsai/housyanou-top.html>

放射性セシウム134、137の合計値 単位：ベクレル／kg  
平成23年4月7日～11月14日に採取したものの結果

種類		いわき海域				相双海域				計			
		最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え
魚類	アイナメ	3,000	55	595	32 (11)	1,780	10	190	50 (3)	3,000	10	348	82 (14)
	アオメエソ(メヒカリ)	184	77	138	4	ND			1	184	ND	110	5
	アカエイ	37	37	37	1	250	54	125	4	250	37	107	5
	アカカマス					50	50	50	1	50	50	50	1
	アカガレイ	79	79	79	1					79	79	79	1
	アカシタビラメ	250	40	176	7	43	18	27	3	250	18	131	10
	アカムツ	10	8	9	2	30	ND	15	2	30	ND	12	4
	アブラツノザメ	62	12	37	2	44	44	44	1	62	12	39	3
	イカナゴ	270	174	218	3	400	82	156	8	400	82	173	11
	イシガレイ	1,220	62	364	16 (3)	1,030	25	212	31 (2)	1,220	25	264	47 (5)
	ウスバハギ					ND			1	ND			1
	ウスメバル	950	70	416	9 (3)	520	520	520	1 (1)	950	70	426	10 (4)
	ウマヅラハギ					12	12	12	1	12	12	12	1
	ウルメイワシ	23	23	23	1					23	23	23	1
	エゾイソアイナメ(ドンコ)	1,770	40	507	14 (5)	420	ND	113	17	1,770	ND	291	31 (5)
	オオクチシナギ	51	13	32	2	55	55	55	1	55	13	40	3
	カガミダイ	58	ND	44	9	127	45	63	9	127	ND	53	18
	カタクチイワシ	144	8	52	7	30	30	30	1	144	8	49	8
	カツオ	ND			1					ND			1
	カナガシラ	360	33	132	13	194	24	85	21	360	24	103	34
	カワハギ					7	ND	2	3	7	ND	2	3
	ガンゾウビラメ	27	27	27	1					27	27	27	1
	カンパチ	25	25	25	1	73	ND	27	4	73	ND	26	5
	キアンコウ	400	27	94	10	136	ND	53	16	400	ND	69	26
	ギス	53	13	35	4					53	13	35	4
	キツネメバル	114	114	114	1					114	114	114	1
	ギンアナゴ	130	130	130	1	27	27	27	1	130	27	79	2
	ギンザケ	73	73	73	1					73	73	73	1
	クサウオ					39	17	31	3	39	17	31	3
	クロウシノシタ	330	167	235	3	133	26	57	6	330	26	116	9
	クロソイ	2,190	211	1,023	4 (2)					2,190	211	1,023	4 (2)
	クロダイ	172	92	132	2	137	13	81	4	172	13	98	6
	クロマグロ(メジマグロ)	41	24	30	5					41	24	30	5
	クロメバル	280	280	280	1					280	280	280	1
	ケムシカジカ	230	ND	151	4	260	27	75	9	260	ND	98	13
	コウナゴ	14,400	320	3,486	11 (6)					14,400	320	3,486	11 (6)
	ゴマサバ	48	22	38	4	68	ND	39	4	68	ND	39	8
	コモンカスベ	1,560	85	507	47 (19)	1,280	51	243	36 (5)	1,560	51	393	83 (24)
	コモンフグ	186	55	85	5					186	55	85	5
	サブリウ					54	54	54	1	54	54	54	1
	サメガレイ	152	ND	82	3	11	11	11	1	152	ND	64	4
	サンマ	ND			1					ND			1
	シイラ	ND			1					ND			1
	ショウサイフグ	230	25	137	9	177	31	112	5	230	25	128	14
	シラス	850	ND	123	48 (4)	10	ND	4	5	850	ND	112	53 (4)
	シロギス	400	400	400	1					400	400	400	1
	シログチ	79	12	47	6	75	41	53	5	79	12	50	11
	シロザケ(筋肉)	ND			7	ND			5	ND			12
	シロザケ(精巢)	ND			2	ND			1	ND			3
	シロザケ(卵巣)	ND			7	ND			2	ND			9
	シロメバル	3,200	290	1,236	8 (5)	2,400	36	584	11 (2)	3,200	36	858	19 (7)
	スズキ	390	68	176	9	670	91	205	8 (1)	670	68	189	17 (1)
	ソウハチ					28	28	28	1	28	28	28	1
	チカメキントキ	32	32	32	1					32	32	32	1
	チダイ	91	16	40	11	58	ND	17	14	91	ND	27	25
	ナガレメイタガレイ	53	44	50	3	80	ND	32	9	80	ND	36	12
	ニギス					ND			1	ND			1
	ニベ	390	68	239	9	320	135	228	13	390	68	232	22
	ハガツオ	ND			1					ND			1
	ババガレイ(ナメタガレイ)	1,140	ND	228	21 (2)	420	ND	70	34	1,140	ND	130	55 (2)
	ヒガンフグ	370	112	214	3					370	112	214	3
	ヒラメ	4,500	ND	224	70 (4)	1,610	34	157	64 (1)	4,500	ND	192	134 (5)
	ヒレグロ	29	29	29	1	ND			1	29	ND	15	2
	ブリ	53	ND	26	7	114	ND	47	12	114	ND	39	19
	ホウボウ	380	38	134	15	440	28	102	24	440	28	114	39
	ホシエイ					103	103	103	1	103	103	103	1
	ホシガレイ	340	340	340	1	95	95	95	1	340	95	218	2
	ホシザメ	107	10	56	13	57	41	50	3	107	10	55	16
	マアジ	270	ND	75	17	176	ND	51	22	270	ND	61	39
	マアナゴ	121	ND	62	16	176	ND	36	21	176	ND	47	37
	マイワシ	ND			1	21	21	21	1	21	ND	11	2
	マガレイ	420	51	194	16	187	ND	69	39	420	ND	106	55
	マコガレイ	550	97	245	34 (2)	530	ND	122	43 (2)	550	ND	176	77 (4)
	マゴチ	290	138	227	6	280	51	127	9	290	51	167	15
	マサバ	45	45	45	1	186	33	85	7	186	33	80	8

種類		いわき海域				相双海域				計			
		最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え
魚類	マダイ	12	12	12	1	83	27	51	6	83	12	45	7
	マダラ	240	68	160	8	78	11	41	3	240	11	128	11
	マトウダイ	300	ND	47	17	380	ND	66	32	380	ND	60	49
	マフグ	128	128	128	1	101	54	73	6	128	54	80	7
	ミギガレイ(ニクモチ)	31	ND	16	9	26	ND	4	13	31	ND	9	22
	ムシガレイ	172	30	78	9	183	33	80	9	183	30	79	18
	ムラソイ	193	193	193	1	193	193	193	1	193	193	193	1
	メイタガレイ	250	86	157	4	470	9	86	13	470	9	102	17
	メダイ	22	ND	12	5	ND			1	22	ND	10	6
	ヤナギムシガレイ	88	13	37	11	84	ND	21	19	88	ND	27	30
	ユメカサゴ	72	44	58	2	17	9	13	2	72	9	36	4
イカ類	エゾハリイカ(コウイカ)	ND			3	ND			3	ND			6
	ケンサキイカ	23	ND	6	4	7	ND	1	5	23	ND	3	9
	ジンドウイカ	82	ND	15	8	7	7	7	1	82	ND	14	9
	スルメイカ(マイカ)	49	ND	9	6	ND			11	49	ND	3	17
	ヤリイカ					ND			4	ND			4
タコ類	イイダコ					ND			1	ND			1
	マダコ	11	ND	2	7	ND			5	11	ND	1	12
	ミズダコ	360	ND	66	10	29	ND	4	12	360	ND	32	22
	ヤナギダコ	40	ND	10	9	ND			8	40	ND	5	17
甲殻類	イセエビ	141	141	141	1					141	141	141	1
	ガザミ	48	23	36	2	55	ND	12	8	55	ND	17	10
	キシエビ	55	19	37	2					55	19	37	2
	ケガニ	ND			1	ND			2	ND			3
	サルエビ	170	170	170	1	85	ND	43	2	170	ND	85	3
	シャコ					50	20	35	2	50	20	35	2
	ヒラツメガニ	360	105	231	4	34	0	11	11	360	ND	70	15
貝類	アサリ					96	96	96	1	96	96	96	1
	アワビ	480	25	160	15	108	108	108	1	480	25	156	16
	イガイ	159	159	159	1					159	159	159	1
	イワガキ	61	61	61	1					61	61	61	1
	エゾボラモドキ	ND			1					ND			1
	シライトマキバイ	ND			2					ND			2
	ヒメエゾボラ					ND			1	ND			1
	ホタテガイ					19	19	19	1	19	19	19	1
	ホッキガイ	940	107	337	21 (4)	51	41	47	4	940	41	291	25 (4)
	ムラサキイガイ	650	30	271	4 (1)					650	30	271	4 (1)
その他	オキナマコ	34	34	34	1	ND			4	34	ND	7	5
	キタムラサキウニ	1,280	198	483	17 (6)	42	42	42	1	1,280	42	459	18 (6)
	マナマコ	ND			3	29	ND	5	8	29	ND	4	11
	マボヤ					ND			1	ND			1
海藻類	アラメ	970	43	441	16 (6)					970	43	441	16 (6)
	コンブ	113	95	104	2					113	95	104	2
	ヒジキ	1,100	110	605	2 (1)					1,100	110	605	2 (1)
	ワカメ	1,200	41	284	6 (1)					1,200	41	284	6 (1)
合 計		101種類			796 (85)	87種類			804 (17)	118種類			1,600 (102)

\* 暫定規制値 放射性ヨウ素 2,000ベクレル/kg 放射性セシウム134、137の合計 500ベクレル/kg  
\* ND: 検出限界未満、11月2日以降は不検出  
\* 平均値の計算において、NDは0として計算  
\* 相双海域: 新地町～広野町沖      いわき海域: いわき市沖  
\* カツオの採取場所は三陸南部沖810km 水揚げはいわき市  
\* サンマの採取場所は北海道・青森県沖太平洋 水揚げはいわき市

【放射性ヨウ素について暫定規制値を超えたもの】

コウナゴ  
    いわき海域 平成23年4月13日採取      12,000ベクレル／kg  
    いわき海域    "    4月18日採取      3,900ベクレル／kg  
  
ヒジキ  
    いわき海域 平成23年5月21日採取      2,200ベクレル／kg

漁況概況のお知らせについて

11月8日以降の県内における漁況概況については、次週の漁海況速報でお知らせいたします。

## 漁況概況のお知らせ

11月8日～11月22日の県内における漁況概況は次の通りです。

漁況概況(福島県水産試験場)

単位: kg

数量・単価表記…「-」→不明 「=」→一本値

地区	漁業種類	水揚げ日	延隻・統	魚種	水揚げ量	高値単価	平均単価	備考
小名浜	まき網	11/22	1	サバ類	10,370	-	53	
底曳	棒受網	11/10～12, 14, 15, 19	6	サンマ	607,958	165	87	

## 県版資源評価票(その3)

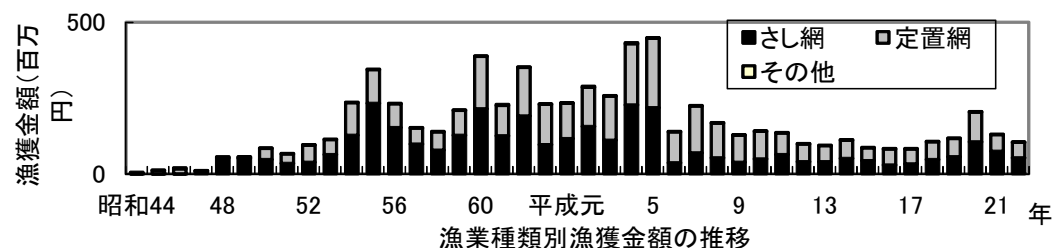
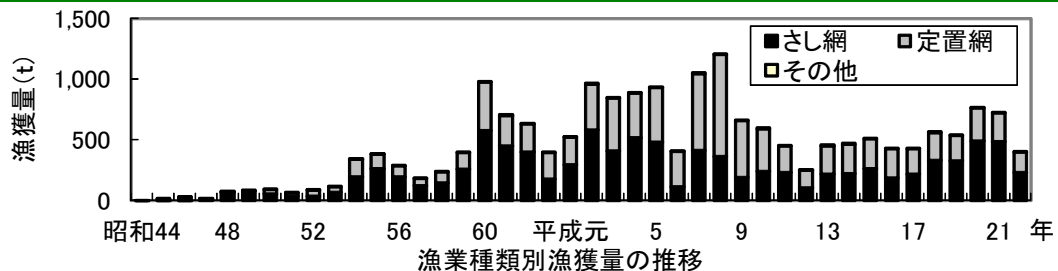
### サケ

#### 生態

- 成熟・産卵: 2～6歳で成熟します(主群は4歳)。9月～12月にかけて沿岸に来遊し、河川に遡上して産卵します。
- 分布・移動: 主に茨城県以北の太平洋側、石川県以北の日本海側に分布します。稚魚は3～5月にかけて河川から海へ降海し、その後、北太平洋海域(オホーツク海、ベーリング海、アラスカ湾)まで索餌回遊します。成熟すると日本沿岸まで来遊します。
- 食性: 雑食性ですが、幼魚期は主に動物プランクトン、成魚はオキアミ、小魚、イカ類などを摂食します。

#### 漁獲の動向

平成22年度における漁獲量は404t、漁獲金額は104百万円でした。サケ漁獲量は近年400～800t、金額は82～206百万円で推移しています。本県のサケはほぼ100%が人工ふ化放流によるもので、漁獲量の増減は稚魚放流数に大きく左右されます。昭和58年～平成10年までは4～6千万尾の稚魚放流をしていましたが、平成11年以降は4～5千万尾と減少しています。近年の回帰率(海面と河川の漁獲尾数を4年前の稚魚放流数で除した値)は0.7～1.2%となっています。



#### 資源の状態

資源の水準: - (造成資源)  
資源の動向: - (造成資源)

#### 現在実施されている管理策

定置漁業による漁獲期間の制限(9/20～11/15)

#### 考えられる管理策と期待される効果

稚魚放流により人工的に造成している資源であることから、河川において親魚が十分に確保できるよう河川の増殖団体と海面の漁業団体との間での連携、調整を進めることにより、来遊資源の安定化を図ることが重要です。



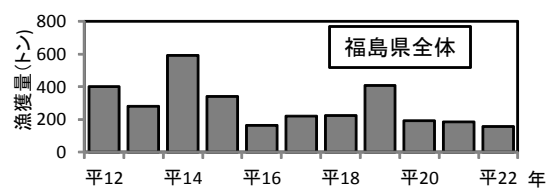
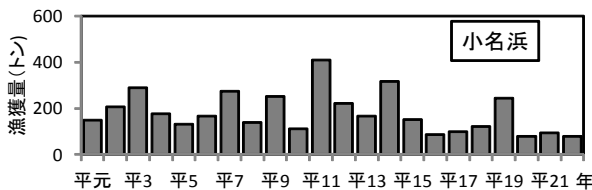
## アオメエソ（地方名：メヒカリ）

### 生 態

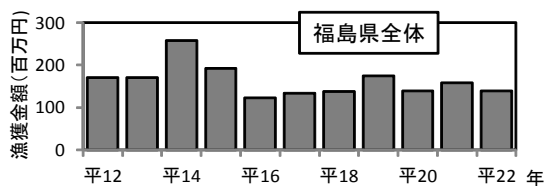
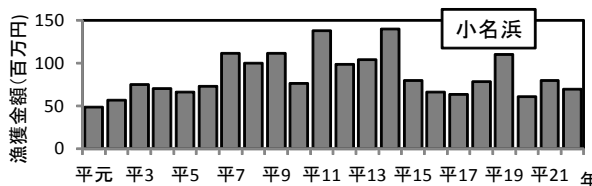
- 分布・移動：青森県から鹿児島県までの太平洋岸に広く分布します。常磐海域に冬春季に出現する0歳魚は、水深150～450mの広範囲に分布しますが、成長に伴い水温の高い水深150～200mに分布を移します。来遊翌年の秋以降、この群は漁獲されなくなりますが、移動、回遊の詳細は不明です。
- 成熟・産卵：産卵期は2～7月と推測されていますが、産卵場、成熟年齢等は不明です。
- 食 性：胃内容物はオキアミ類が主体で、端脚類、小型の魚類も混じります。
- 成 長：本県沿岸に1月頃に来遊する全長8cm前後の個体は生後150日程度の0歳魚で、6月に全長10cm程度で1歳魚、翌年の6月に全長14cm程度で2歳魚となります。その後漁場から散逸するため、2歳以降の成長は不明です。

### 漁獲の動向

底びき網のみで漁獲され、平成22年の県全体の漁獲量は158トン、漁獲金額は1.4億円でした。小名浜魚市場のアオメエソ水揚げ量は県全体の50～60%を占めます。同魚市場における平成元年以降の水揚げ量は、冬春季の水温が高い年に増加する傾向にあります。平成14年後半からは水温が低め基調で推移したため最近の水揚げ量は低調となりました。平成19年水揚げ量が増加したのは、100m深水温が近年では高く、来遊量が増加したためと考えられます。県全体では平成12年以降、漁獲量は150～590トン、金額は1.2～2.9億円で変動しています。漁獲主体は1～2歳魚と考えられます。



漁獲量の推移(左図:小名浜、右図:福島県全体)



漁獲金額の推移(左図:小名浜、右図:福島県全体)

### 資源の状態

○福島県沖は成育場の一部と考えられ、資源全体の状況を把握することができません。

資源の水準：不明

平成22年漁期来遊水準：－

資源の動向：不明

### 現在実施されている管理策

ありません。

### 今後考えられる管理策

来遊資源であり、資源全体の状況を把握することが出来ないため、管理策を策定できない状況にあります。

しかし、0歳魚の来遊量とその後の漁獲量を左右することから、冬春季の小型魚を獲り残し、単価の高い大型魚で漁獲することで、一定の加入量を効率的に利用すれば、漁獲金額の増加に繋がる可能性があります。

# 漁況概況のお知らせ

11月23日～12月1日の県内における漁況概況は次の通りです。

漁況概況(福島県水産試験場) 単位: k g  
数量・単価標記…「-」→不明 「=」→一本値

地区	漁業種類	水揚げ日	延隻・統	魚種	水揚げ量	高値単価	平均単価	備考
小名浜 底曳	棒受網	11/24, 29, 30, 12/1	6	サンマ	390,438	131	89	

## サンマの水揚げ状況について

平成23年12月1日に、社団法人全国さんま漁業協会が公表した、11月30日現在のさんま水揚げ状況は次のとおりです。(公表資料より抜粋)

### 【属地水揚げ】

水揚げ地区	水揚げ隻数		水揚げ数量(トン)		水揚げ金額(千円)		単価(円/kg)	
	H23	H22	H23	H22	H23	H22	H23	H22
北海道	8,623	7,741	135,960	82,846	15,956,833	13,431,160	117	162
青森	4	1	373	3	26,836	280	72	93
岩手	374	1,488	28,456	41,090	3,125,979	4,951,429	110	121
宮城	146	936	11,364	41,012	1,134,340	4,857,473	100	118
福島	20	53	1,786	1,746	169,400	212,790	95	122
茨城	1	6	17	53	1,648	5,815	98	110
千葉	224	86	21,579	4,179	2,074,073	556,866	96	133
その他	0	1	0	11	0	1,426	-	126
計	9,392	10,312	199,535	170,940	22,489,108	24,017,239	113	141

- ・漁業情報サービスセンターの情報によると、11月末のサンマ漁場は、岩手～宮城県沖の150～300km沖周辺となっている模様です。
- ・11月28日に岩手県沖で漁獲されたサンマについて、福島水試が魚体調査を行った結果は、体長24～32cmの範囲で30cmモードでした。
- 【サンマの放射能検査について】
  - ・全さんまのホームページに、放射性核種分析結果が掲載されています。
  - 最新の分析結果(平成23年12月1日公表、三陸北部沖で漁獲し、11月26日～27日に採取したもの)では、ヨウ素131がいずれも不検出、セシウム134及び137が不検出～0.5Bq/kg-生程度となっています。詳細につきましては、全さんまのホームページでご確認ください。

全さんまホームページ <http://www.samma.jp/>

県版資源評価票(その4)

# マダラ（地方名：ミズタラ、ポンタラ）

## 生 態

- 分布・移動：日本海から東シナ海北部、茨城県以北の太平洋岸、オホーツク海に分布します。産卵期には水深数十mに移動しますが、産卵期以外は水深100～550mに分布し、季節的な移動が見られます。
- 成熟・産卵：成熟年齢はオス、メスとも3～4歳で、成熟後は毎年産卵します。東北太平洋岸の産卵期は12～3月で、産卵場は仙台湾の他、三陸沿岸にも小規模のものがあります。
- 食 性：若魚期はオキアミ類、成魚期は魚類、イカ、タコ類が主体です。

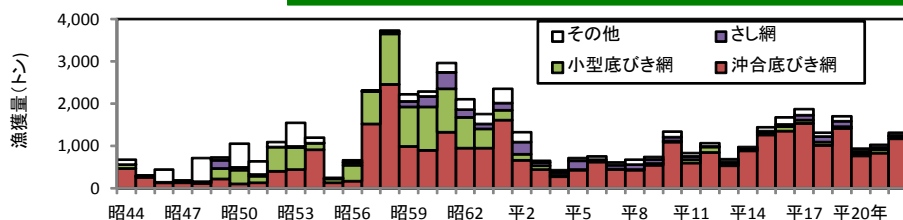
## マダラの成長

年齢	オス、メス計	
	全長 (cm)	体重 (g)
1.0	20	0.08
2.0	37	0.55
3.0	52	1.58
4.0	65	3.11
5.0	75	5.04
6.0	85	7.22

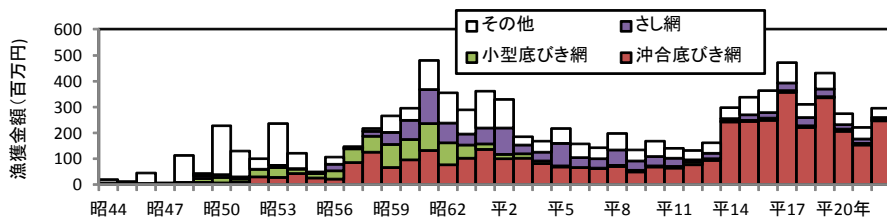
※1月1日を起算日とした

## 漁獲の動向

平成22年の漁獲量は1,304トン、漁獲金額は2.9億円でした。漁獲量は昭和57～平成元年にかけて2,000～3,000トンで推移しましたが、平成3年以降数100トン程度まで減少しました。平成14年から増加傾向を示し平成17年には1,867トン、金額は4.7億円にまで達しました。この漁獲金額増加の殆どは相双漁協相馬原釜支所の沖底によるもので、単価のアップと安定化を狙った箱詰め（氷詰め）を平成14年から本格的に開始したことによります。漁獲量は平成18年以降増減を繰り返しています。直近10力年の漁法別漁獲割合は沖底が83%、小底が5%、さし網が5%、その他が7%で、底びき網が大部分を占めます。底びき網の漁獲主体は1～2歳魚です。



漁業種類別漁獲量の推移



漁業種類別漁獲金額の推移

## 資源の状態

- 東北海域における平成22年の資源水準は、中位と考えられます。
- 卓越と考えられる平成14年級の漁獲への寄与がなくなり、平成19年級の加入が極めて少なく、平成20年以降の加入は中位と考えられるため横ばい傾向となっています。

資源の水準：中位  
資源の動向：横ばい

## 現在実施されている管理策

ありません。

## 今後考えられる管理策

マダラは成長が早く2歳で0.55kg、3歳で1.58kgまで成長します。このため、加入が多くない状況でも小型魚の漁獲を規制することで資源量を回復させることができると考えられます。

# 緊急時モニタリング検査結果(総括表)

放射性セシウム134、137の合計値 単位:ベクレル/kg  
平成23年4月7日～12月5日に採取したものの結果

種類	いわき海域				相双海域				計			
	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え
魚類												
アイナメ	3,000	55	587	37 (12)	1,780	ND	184	58 (3)	3,000	ND	341	95 (15)
アオメソ(メヒカリ)	184	33	117	5	ND			1	184	ND	97	6
アカエイ	37	37	37	1	250	54	125	4	250	37	107	5
アカカマス					50	50	50	1	50	50	50	1
アカガレイ	79	79	79	1	57	ND	14	4	79	ND	27	5
アカシタビラメ	250	40	162	8	43	18	27	3	250	18	125	11
アカムツ	10	8	9	2	30	ND	15	2	30	ND	12	4
アブラツノザメ	62	12	37	2	44	44	44	1	62	12	39	3
イカナゴ	270	174	218	3	400	82	156	8	400	82	173	11
イシガレイ	1,220	62	377	17 (4)	1,030	25	201	37 (2)	1,220	25	256	54 (6)
イシカワシラウオ	94	67	81	2					94	67	81	2
イラコアナゴ					ND			1	ND			1
ウスバハギ					ND			1	ND			1
ウスメバル	950	70	404	10 (3)	520	240	380	2 (1)	950	70	400	12 (4)
ウマツラハギ					12	12	12	1	12	12	12	1
ウルメイワシ	23	23	23	1					23	23	23	1
エゾイソアイナメ(ドンコ)	1,770	7	451	18 (6)	420	ND	91	25	1,770	ND	242	43 (6)
オオクチシナギ	51	13	32	2	55	55	55	1	55	13	40	3
カガミダイ	58	ND	44	9	127	45	63	9	127	ND	53	18
カタクチイワシ	144	8	48	8	30	30	30	1	144	8	46	9
カツオ	ND			1					ND			1
カナガシラ	360	33	127	14	194	24	82	23	360	24	99	37
カワハギ					7	ND	2	3	7	ND	2	3
ガンゾウビラメ	27	27	27	1					27	27	27	1
カンテンゲンゲ					ND			1	ND			1
カンパチ	25	25	25	1	73	ND	27	4	73	ND	26	5
キアコウ	400	27	94	10	136	ND	52	17	400	ND	68	27
ギス	53	13	35	4	ND			1	53	ND	28	5
キチジ					ND			1	ND			1
キツネメバル	290	114	202	2					290	114	202	2
ギンアナゴ	130	130	130	1	27	27	27	1	130	27	79	2
ギンザケ	73	73	73	1					73	73	73	1
クサウオ					39	ND	21	4	39	ND	21	4
クロウシノシタ	330	167	235	3	133	26	57	6	330	26	116	9
クロソイ	2,190	185	855	5 (2)					2,190	185	855	5 (2)
クロダイ	240	92	168	3	137	13	81	4	240	13	118	7
クロマグロ(メジマグロ)	41	24	30	5					41	24	30	5
クロメバル	280	280	280	1					280	280	280	1
ケムシカジカ	230	ND	151	4	260	27	75	9	260	ND	98	13
コウナゴ	14,400	320	3,486	11 (6)					14,400	320	3,486	11 (6)
コブシカジカ					ND			1	ND			1
ゴマサバ	48	22	38	4	68	ND	39	4	68	ND	39	8
ゴマソイ	149	149	149	1					149	149	149	1
コモンカスベ	1,560	85	515	51 (22)	1,280	51	234	42 (6)	1,560	51	388	93 (28)
コモンフグ	186	55	85	5					186	55	85	5
サブリウ					54	54	54	1	54	54	54	1
サメガレイ	152	ND	82	3	11	ND	4	3	152	ND	43	6
サンマ	ND			1					ND			1
シイラ	ND			1					ND			1
ショウサイフグ	230	25	137	9	177	31	112	5	230	25	128	14
シラス	850	ND	115	52 (4)	25	ND	7	6	850	ND	104	58 (4)
シロギス	400	400	400	1					400	400	400	1
シログチ	79	12	45	7	75	41	53	5	79	12	48	12
シロザケ(筋肉)	ND			7	ND			5	ND			12
シロザケ(精巣)	ND			2	ND			1	ND			3
シロザケ(卵巣)	ND			7	ND			2	ND			9
シロメバル	3,200	290	1,119	10 (6)	2,400	36	542	13 (3)	3,200	36	793	23 (9)
スケトウダラ					13	ND	8	3	13	ND	8	3
スズキ	390	68	162	11	670	46	170	12 (1)	670	46	166	23 (1)
ソウハチ					28	28	28	1	28	28	28	1
チカメキントキ	32	32	32	1					32	32	32	1
チダイ	91	7	39	11	58	ND	17	15	91	ND	26	26
テナガダラ					22	22	22	1	22	22	22	1
ナガツカ					ND			1	ND			1
ナガレメイタガレイ	53	44	50	3	80	ND	32	9	80	ND	36	12
ニギス					ND			1	ND			1
ニベ	390	68	226	10	320	135	228	13	390	68	227	23
ヌマガレイ					148	27	88	2	148	27	88	2
ハガツオ	ND			1					ND			1
ババガレイ(ナメタガレイ)	1,140	ND	220	23 (2)	420	ND	65	43	1,140	ND	119	66 (2)
ヒガンフグ	370	112	214	3					370	112	214	3
ヒラメ	4,500	ND	227	77 (4)	1,610	34	154	76 (1)	4,500	ND	191	153 (5)
ヒレグロ	29	29	29	1	ND			2	29	ND	10	3
ブリ	53	ND	24	7	270	ND	63	13	270	ND	50	20



種類		いわき海域				相双海域				計			
		最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え	最大値	最小値	平均値	検査回数 ( )内規制値超え
魚類	ホウボウ	380	38	130	16	440	28	97	26	440	28	110	42
	ホシエイ					103	103	103	1	103	103	103	1
	ホシガレイ	340	340	340	1	95	43	69	2	340	43	159	3
	ホシザメ	107	10	56	13	57	41	50	3	107	10	55	16
	マアジ	270	ND	71	18	176	ND	51	23	270	ND	60	41
	マアナゴ	171	ND	65	18	176	ND	36	22	176	ND	49	40
	マイワシ	ND			1	30	13	22	2	30	ND	14	3
	マガレイ	420	37	185	17	187	ND	71	44	420	ND	102	61
	マコガレイ	550	97	243	36 (2)	530	ND	120	51 (2)	550	ND	170	87 (4)
	マゴチ	290	138	227	6	280	51	127	9	290	51	167	15
	マサバ	45	ND	23	2	186	33	85	7	186	ND	71	9
	マダイ	12	12	12	1	83	22	49	6	83	12	44	7
	マダラ	300	68	176	9	100	11	48	7	300	11	120	16
	マトウダイ	300	ND	45	18	380	ND	67	33	380	ND	59	51
	マフグ	128	128	128	1	101	54	73	6	128	54	80	7
	ミギガレイ(ニクモチ)	31	ND	15	12	26	ND	3	14	31	ND	9	26
	ムシガレイ	172	30	76	10	183	33	80	9	183	30	78	19
	ムラソイ	193	142	168	2					193	142	168	2
	メイトガレイ	250	86	157	4	470	8	80	14	470	8	97	18
	メダイ	22	ND	11	5	ND			1	22	ND	9	6
	ヤナギムシガレイ	88	13	36	13	84	ND	20	20	88	ND	26	33
	ユメカサゴ	72	44	61	3	11	9	10	2	72	9	40	5
イカ類	エゾハリイカ(コウイカ)	ND			3	ND			3	ND			6
	ケンサキイカ	23	ND	6	4	7	ND	1	5	23	ND	3	9
	ジンドウイカ	82	ND	15	8	7	7	7	1	82	ND	14	9
	スルメイカ(マイカ)	49	ND	8	7	ND			11	49	ND	3	18
	ヤリイカ	ND			1	ND			5	ND			6
タコ類	イイダコ					ND			1	ND			1
	マダコ	27	ND	4	10	ND			5	27	ND	3	15
	ミズダコ	360	ND	60	11	29	ND	4	13	360	ND	29	24
	ヤナギダコ	40	ND	9	10	ND			10	40	ND	5	20
甲殻類	イセエビ	141	141	141	1					141	141	141	1
	ガザミ	48	23	36	2	55	ND	11	9	55	ND	15	11
	キシエビ	55	19	37	2					55	19	37	2
	クルマエビ					12	12	12	1	12	12	12	1
	ケガニ	ND			1	ND			2	ND			3
	サルエビ	170	170	170	1	85	ND	43	2	170	ND	85	3
	シヤコ					50	20	35	2	50	20	35	2
	ヒラツメガニ	360	105	231	4	34	ND	11	11	360	ND	70	15
	ホッコクアカエビ					ND			2	ND			2
貝類	アサリ					96	96	96	1	96	96	96	1
	アワビ	480	16	152	16	108	108	108	1	480	16	150	17
	イガイ	159	159	159	1					159	159	159	1
	イワガキ	61	61	61	1					61	61	61	1
	エゾボラモドキ	ND			1					ND			1
	シライトマキバイ	ND			2	ND			1	ND			3
	チヂミエゾボラ					ND			2	ND			2
	ナガバイ					ND			1	ND			1
	ネジヌキバイ					ND			1	ND			1
	ヒメエゾボラ					ND			1	ND			1
	ホタテガイ					19	19	19	1	19	19	19	1
	ホッキガイ	940	86	311	24 (4)	51	41	47	4	940	41	273	28 (4)
	ムラサキイガイ	650	30	271	4 (1)					650	30	271	4 (1)
その他	オキナマコ	34	34	34	1	ND			4	34	ND	7	5
	キタムラサキウニ	1,280	198	478	18 (6)	42	42	42	1	1,280	42	455	19 (6)
	マナマコ	ND			3	29	ND	5	8	29	ND	4	11
	マボヤ					ND			1	ND			1
海藻類	アラメ	970	43	425	17 (6)					970	43	425	17 (6)
	コンブ	113	95	104	2					113	95	104	2
	ヒジキ	1,100	110	605	2 (1)					1,100	110	605	2 (1)
	ワカメ	1,200	41	284	6 (1)					1,200	41	284	6 (1)
合 計		105種類			871 (92)	104種類			926 (19)	133種類			1,797 (111)

\* 暫定規制値 放射性ヨウ素 2,000ベクレル/kg 放射性セシウム134、137の合計 500ベクレル/kg

\* ND: 検出限界未満、11月2日以降は不検出

\* 平均値の計算において、NDは0として計算

\* 相双海域: 新地町～広野町沖 いわき海域: いわき市沖

\* カツオの採取場所は三陸南部沖810km 水揚げはいわき市

#### 【放射性ヨウ素について暫定規制値を超えたもの】

##### コウナゴ

いわき海域 平成23年4月13日採取 12,000ベクレル/kg  
 いわき海域 " 4月18日採取 3,900ベクレル/kg

##### ヒジキ

いわき海域 平成23年5月21日採取 2,200ベクレル/kg

## 平成23年12月沿岸定線観測の結果

平成23年12月4日～10日にかけて、鵜ノ尾崎、富岡及び塩屋崎定線の沿岸定線観測を実施しましたのでその結果についてお知らせします。

なお、平成23年10月～12月の沿岸及び沖合定線観測につきましては、水産庁並びに独立行政法人水産総合研究センターのご協力で実施していただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

### 1 水温の水平分布

表面水温は13～17℃台で、50海里より沿岸では13℃台が広く分布し、沖合では15～17℃台が分布していました。

100m深水温は10～14℃台が分布し、富岡沖30海里付近には11℃台の冷水域がみられました。また、塩屋崎沖50海里付近にも10℃台の冷水域がみられました。

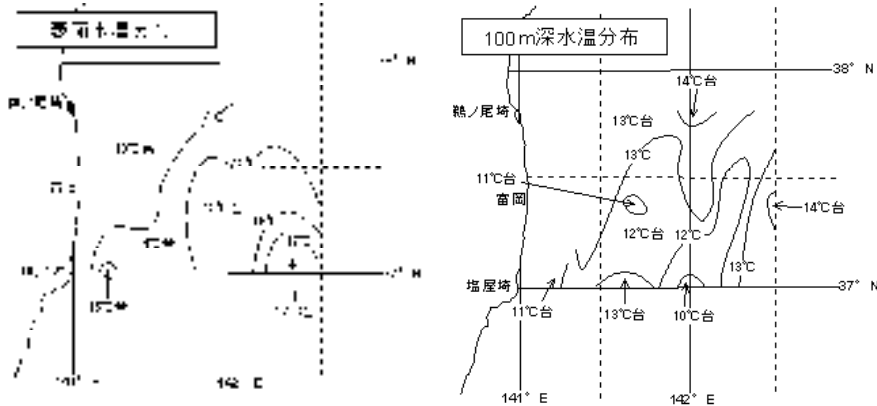


図1 水温の水平分布(左：表面水温、右：100m深水温)

### 2 水温の鉛直分布

鵜ノ尾崎、富岡定線では、50m以浅で13～15℃台が分布していました。塩屋崎定線では50m以浅で13～18℃台が分布し、50海里より沖合で16～18℃台の暖水が分布していました。100m深付近では鵜ノ尾崎で12～14℃台、富岡で11～14℃台、塩屋崎で10～13℃台が分布していました。300m以深では鵜ノ尾崎及び塩屋崎で4～5℃台、富岡では4～6℃台が分布していました。



図2 水温の鉛直分布(左から鵜ノ尾崎、富岡、塩屋崎定線)

### 3 水温の前年差及び平年差

#### (1) 前年差

表層では鵜ノ尾崎定線で低め(-2.73℃)、塩屋崎定線(-4.19)で極めて低めでした。100m深では鵜ノ尾崎定線でやや低め(-2.34)、塩屋崎定線(-4.55)で極めて低めでした。

#### (2) 平年差

表層では鵜ノ尾崎定線で平年並み(-0.90)、塩屋崎定線(-1.38)でやや低めでした。100m深でも鵜ノ尾崎定線で平年並み(+0.24)、塩屋崎定線(-1.65)でやや低めでした。

表1 定線別の水温観測値と前年差及び平年差

(単位:℃)					
観測水深	定線	観測値	前年差	平年差	備考
表層	鵜ノ尾崎	13.69	-2.73	-0.90	
	富岡	14.83	—	-0.79	前年同月の富岡定線は欠測
	塩屋崎	14.56	-4.19	-1.38	
	定線全体	14.28	-3.46	-1.06	
100m深	鵜ノ尾崎	14.17	-2.34	+0.24	
	富岡	12.72	—	-0.86	前年同月の富岡定線は欠測
	塩屋崎	12.45	-4.55	-1.65	
	定線全体	12.97	-3.73	-0.91	

(観測値は50海里内の平均値、平年値は過去30年の平均値)

[平年差の表現基準]

平年並み	0～±0.9℃
やや高め(低め)	±1.0～2.4℃
高め(低め)	±2.5～3.9℃
極めて高め(低め)	±4.0℃～

### 4 今後の見通し(1か月予測)

現況では、本県沿岸海域は黒潮系暖水が弱く波及し、富岡、塩屋崎で冷水域が分布していますが、親潮系冷水、黒潮系暖水ともに弱い海況となっています。

気象庁の1か月予測では、当面は親潮系冷水の南下は弱く、黒潮系暖水の波及も弱い海況が続き、沿岸水温は「平年並み」～「平年よりやや低め」と予測されています。

## 漁況概況のお知らせ

12月2日～12月21日の県内における漁況概況は次の通りです。

漁況概況(福島県水産試験場)

単位: kg

数量・単価標記…「-」→不明 「=」→一本値

地区	漁業種類	水揚げ日	延隻・統	魚種	水揚げ量	高値単価	平均単価	備考
小名浜	まき網	12/19	1	サバ類	57,292	80	69	
底曳	棒受網	12/2, 3, 8, 9, 12	6	サンマ	442,236	138	73	

## 県版資源評価票(その5)

### キアンコウ(地方名: アンコウ)

#### 生態

○分布・移動: 北海道以南の日本各地に広く分布しています。福島県沖では水深50～200mに主に分布し、4～6月に水深30m付近まで接岸します。水温、餌環境の変化、産卵行動に伴い深淺移動するとされています。

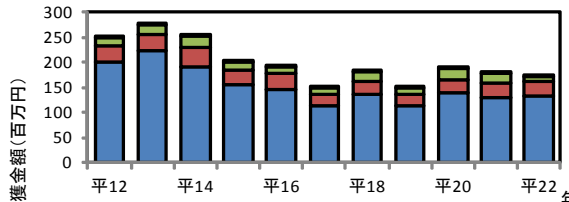
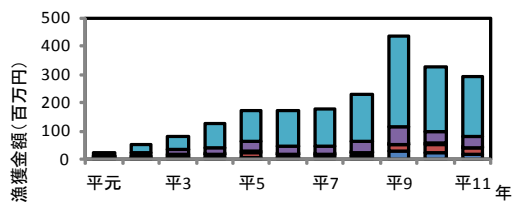
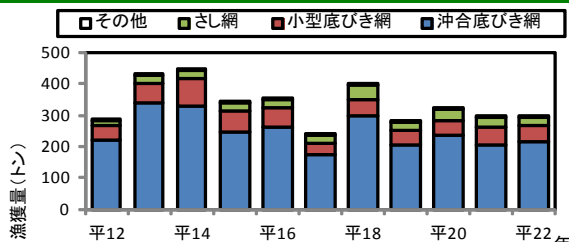
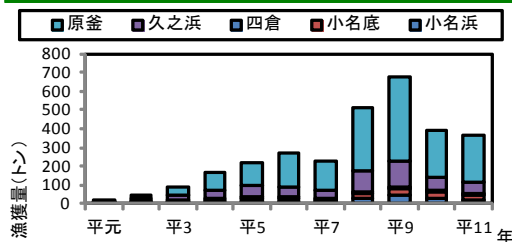
○成熟・産卵: 成熟サイズはオスが全長40cm以上、メスが全長60cmです。産卵期は福島県沖では4～6月頃と推定されています。

○食性: 胃内容物は魚類とイカ、タコ類が主体です。

○成長: 東北太平洋岸のキアンコウは年齢形質が見つかっておらず、年齢別の平均体長が分かりません。漁獲物の全長組成の推移から、1.5歳で全長25～29cm、2.5歳で全長45cm程度と推定されています(茨城)。

#### 漁獲の動向

平成22年の漁獲量は295トン、金額は1.7億円でした。漁獲量は平成14年に440トンまで増加した後、増減を繰り返し、平成19年以降は横ばいとなっています。平成11年以前の漁獲量推移(主要5漁協)も合わせてみると、平成9年まで急増し、その後減少したものの近年は横ばい状態とみられます。漁獲金額は、平成13年以降減少傾向にありましたが、近年は横ばい状態です。直近10力年の漁法別漁獲割合は沖底が74%、小底が17%、さし網が9%で、底びき網が大部分を占めます。平成21年の底びき網の体長階級別漁獲尾数では、体長20～30cmの未成魚の漁獲割合が最も高く、全体の50%以上を占めました。



「5漁協漁獲量の推移」及び「5漁協漁獲金額の推移」

「漁業種類別漁獲量の推移」及び「漁業種類別漁獲金額の推移」

#### 資源の状態

○近年の漁獲量は安定して推移していますが、平成8、9年の水準よりは低くなっています。

資源の水準: 中位

資源の動向: 横ばい

#### 現在実施されている管理策

国が実施する資源回復計画に基づき、4～6月に禁漁区が設定されています。

#### 今後考えられる管理策

小型魚の保護が望まれます。

## シロメバル（地方名：メバル、クロメバル）

### 生態

- 分布・移動：北海道南部から九州沿岸および朝鮮半島南部に分布します。漁場が夏季には浅所に形成され、冬季には沖合にも形成されるため、季節的な深浅移動を行う可能性があります。
- 成熟・産卵：オスは2歳で、メスは3歳で全て成熟します。シロメバルは、卵ではなく仔魚を12～2月に産みます。仔魚は2か月ほど浮遊生活をした後、沿岸の藻場などに着底します。
- 食性：アミ、エビ、カニなどの甲殻類を食べていることが多いですが、魚なども食べます。

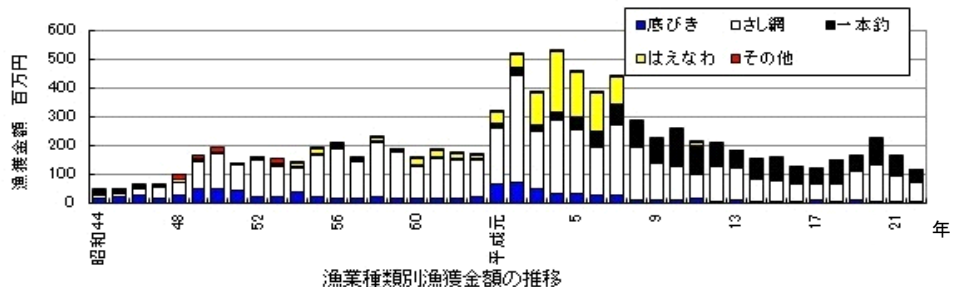
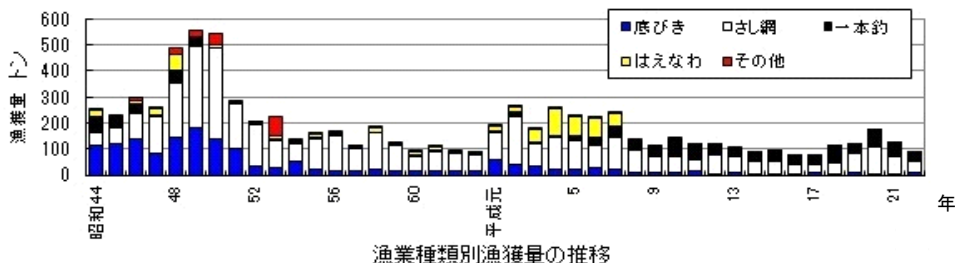
### シロメバルの成長

(1月1日起算)

年 齢	オス		メス	
	全長(cm)	体重(g)	全長(cm)	体重(g)
1	11.0	28.3	12.6	34.8
2	16.5	79.1	16.4	78.1
3	19.0	137.7	19.5	132.5
4	22.1	192.4	22.1	191.8
5	23.7	238.2	24.1	251.3
6	24.8	274.2	25.7	307.7
7	25.6	301.3	27.1	359.4
8	26.1	321.3	28.2	405.2

### 漁獲の動向

平成22年の漁獲量は83トン、漁獲金額は113百万円でした。漁獲量、金額は、平成元～7年は200トン前後、4～5億円前後で推移しましたが、平成8～19年は100トン前後、1～2億円と低迷しました。平成20年に漁獲量が170トンと大きく増加しましたが、漁獲金額は2.2億円で、漁獲量ほどには増加しませんでした。さし網と釣りによる漁獲量が多く、両漁法で水揚げ全体の9割を占めます。2～3歳魚が漁獲の主体となっています。



### 資源の状態

- 過去の漁獲量と比較すると、近年の漁獲量は低位と考えられます（平成20年は漁獲量が多かったものの、平成19、21年は少なく、単年だけの現象でした）。
- 松川浦で採集される稚魚の数から、近年良好な発生がないと考えられるため、漁獲量は今後減少するものと予測されます。

資源の水準：低位

資源の動向：減少

### 現在実施されている管理策

ありません。

### 今後考えられる管理策

さし網の目合拡大や保護区の設定により、漁獲開始年齢を引き上げることが有効だと考えられます。